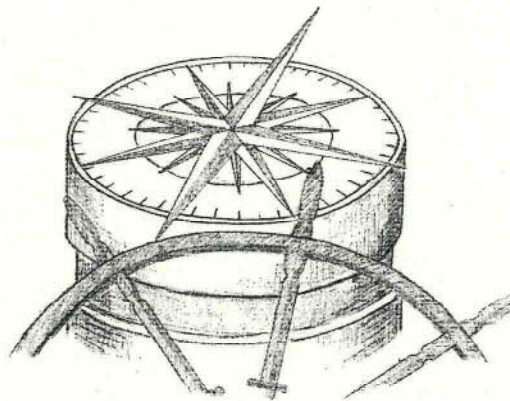


平成31年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査

始良・伊佐地区結果分析



令和元年10月
始良・伊佐教育事務所

1 本地区の学力に関する実態

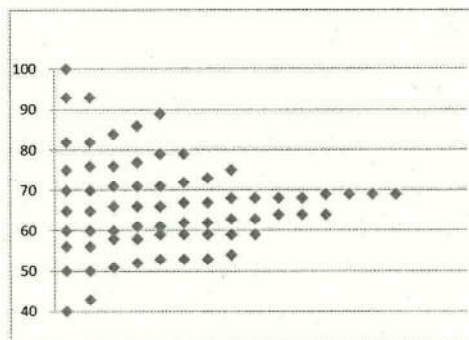
(1) 正答率について

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	最頻値
始良・伊佐地区	2,158	9 / 14	66	12問
鹿児島県(公立)	14,256	9 / 14	66	12問
全国(公立)	1,028,203	9 / 14	63.8	11問

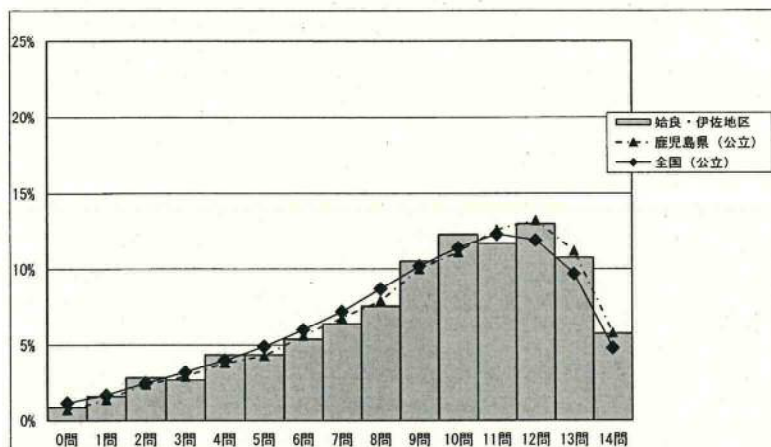
【概況】

地区の平均は、全国平均を上回った。これは、「話すこと、聞くこと」(全国比+1.4)と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(全国比+6.9)の結果が大きく反映されたものと考えられる。一方で、全国比を下回った領域は「書くこと」(-3.3)と「読むこと」(-2.6)であった。なお、全ての領域で県平均を超えていない。

【地区内の正答率分布図】



(2) 正答数分布グラフ(横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	始良・伊佐地区	鹿児島県(公立)	全国(公立)	
14問	124	5.7	5.8	4.8
13問	232	10.8	11.2	9.7
12問	280	13.0	13.2	11.9
11問	252	11.7	12.6	12.3
10問	265	12.3	11.1	11.4
9問	227	10.5	10.0	10.2
8問	163	7.6	7.9	8.7
7問	138	6.4	6.8	7.2
6問	116	5.4	5.6	6.0
5問	94	4.4	4.3	4.9
4問	94	4.4	3.8	4.0
3問	58	2.7	2.9	3.2
2問	61	2.8	2.4	2.5
1問	35	1.6	1.4	1.7
0問	19	0.9	0.7	1.2

(3) 問題別集計結果

領域	書くこと			伝国				読むこと			話すこと・聞くこと			伝国
問題番号	1一	1二	1三	1四(1)ア	1四(1)イ	1四(1)ウ	1四(2)	2一(1)	2一(2)	2二	3一	3二	3三	3四
全国	71.2	63.4	28.8	41.9	69.4	35.6	47.8	80.7	75.9	88.5	81.3	67.4	68.2	73
県	70.1	58.6	24.7	54	65.2	59.9	50.3	77.8	74.6	87.8	80.1	68.7	75	75.5
地区	69.5	59.8	24.2	53.7	65.1	58.7	48.5	77.4	72.2	87.6	79.1	67.7	74.1	76.1
全国比差	-1.7	-3.6	-4.6	11.8	-4.3	23.1	0.7	-3.3	-3.7	-0.9	-2.2	0.3	5.9	3.1

【概況】

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、過去に出題された【1四(ア)】(H29本調査)と、【1四(1)】(H30鹿児島県定着度問題)の問題については、全国を大きく上回る結果となった。

「書くこと」においては、目的に応じて文章から複数の情報を取り出し、それらを根拠に自分の考えをまとめることや、分かりやすく伝えるための記述の仕方に工夫を促せる問題に課題がある。「読むこと」については、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読む設問が全国を下回った。

2 各学校における今後の取組

調査結果から明らかになった課題の共有化と組織的な取組の具体化

- (1) 発達段階ごとに各領域の関連する指導内容に対して、系統的に指導するための具体策を講じる。(組織的(全校)で取り組む学力向上策)
- (2) 具体化された取組の成果をいつ見取るか、何で見取るかを設定する。(取組の評価)
- (3) 取組の評価をした結果、明らかになった新たな課題への補充的な指導及び発展的な指導を設定する。

3 教育事務所における今後の取組

- (1) 始良・伊佐スキルアップセミナーの開催
 - ・ 検証授業に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業モデルの発表
 - ・ NITS(独立法人教職員支援機構)研究員による講話
- (2) 学びの組織活性化推進プロジェクト及び小学校学力向上対策サポート授業でのアプローチ
- (3) 校内研修等への指導主事の積極的な派遣及び指導助言

4 その他

独立行政法人教職員支援機構(NITS) オンライン講座No.17

※ 全国学力・学習状況調査の過去問題を活用して、指導の妥当性を確認することによって、思考・表現する授業の在り方を再考する。

【指導の妥当性を確認するための問題例】

【設問3一】「話すこと・聞くこと 指導内容 5・6年エ」

- ・ H26B1二(正答率60.3%)
- ・ H24B2二(正答率52.9%)
- ・ H28B1二(正答率51.2%)
- ・ H28B1三(正答率50.6%)

【設問1三】「書くこと 指導指導内容 5・6年ウ」

- ・ H25B2一(正答率64%)
- ・ H27B1三(正答率34.9%)
- ・ H29B2三(正答率33.2%)
- ・ H30B2二(正答率13.5%)

【設問2一(2)】「読むこと 指導内容 5・6年ウ」

- ・ H27B1二(正答率71.0%)
- ・ H30B2三(正答率70.9%)

教科別結果について

小学校算数

1 本地区の学力に関する実態

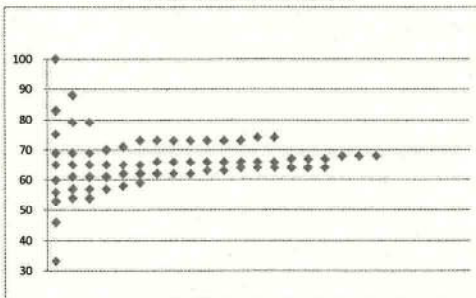
(1) 正答率について

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	最頻値
始良・伊佐地区	2,159	9 / 14	65	11問
鹿児島県 (公立)	14,262	9 / 14	65	12問
全国 (公立)	1,043,185	9 / 14	66.6	12問

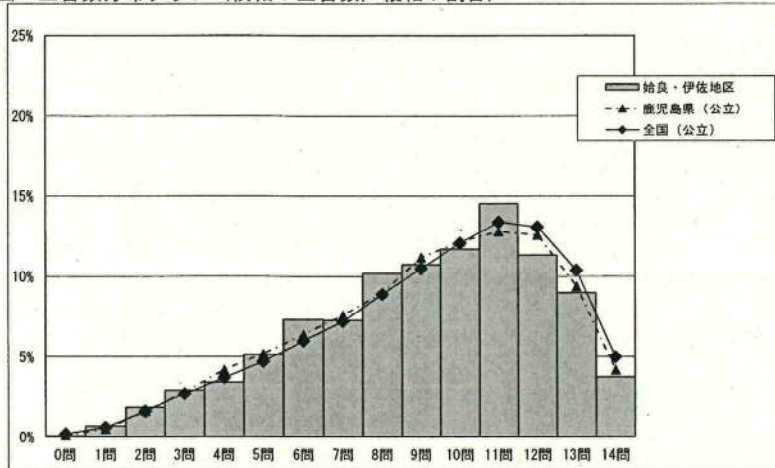
【概況】

地区の平均は、全国平均を下回った。領域別では全国の前答率と比較して、「数と計算」(−1.9)、「量と測定」(−3.3)、「図形」(−0.2)、「数量関係」(−1.7)であった。県正答率との比較では、「図形」以外では若干下回る程度であるものの、特に「量と測定」において、−1.2であり、課題となっている。

【地区内正答率分散図】



(2) 正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数集計値				
正答数	児童数	割合 (%)		
	始良・伊佐地区	始良・伊佐地区	鹿児島県 (公立)	全国 (公立)
14問	98	4.7	5.8	4.8
13問	183	8.7	11.2	9.7
12問	229	10.9	13.2	11.9
11問	272	13.0	12.6	12.3
10問	258	12.3	11.1	11.4
9問	245	11.7	10.0	10.2
8問	203	9.7	7.9	8.7
7問	180	8.6	6.8	7.2
6問	143	6.8	5.6	6.0
5問	120	5.7	4.3	4.9
4問	86	4.1	3.8	4.0
3問	41	2.0	2.9	3.2
2問	30	1.4	2.4	2.5
1問	8	0.4	1.4	1.7
0問	4	0.2	0.7	1.2

(3) 問題別集計結果

領域	図形		量と測定	数量関係	数と計算	量と測定	数量関係	数と計算	数と計算			数量関係	数と計算	量と測定
問題番号	1(1)	1(2)	1(3)	2(1)	2(2)	2(3)	2(4)	3(1)	3(2)	3(3)	3(4)	4(1)	4(2)	4(3)
全国	93.1	60.3	43.9	95.2	78.6	52.1	60.1	81.8	31.1	74.9	47	82.7	68.6	62.6
県	94.6	58.1	44	95.6	72.6	47	63.4	80.2	33.4	73.4	43.6	82.6	66.4	61
地区	94.8	58.2	41.5	95.7	73.2	46.3	64.3	78.1	31.2	72.3	43.6	82.2	66.1	60.8
全国比	1.7	-2.1	-2.4	0.5	-5.4	-5.8	4.2	-3.7	0.1	-2.6	-3.4	-0.5	-2.5	-1.8

【概況】

問題2(4)の、加法和乗法の混合した整数と小数の計算に関する設問については、H30年度鹿児島学習定着度調査に計算問題として類似のものが出題されており、正答率が全国を大きく上回った。

一方で、「数量関係」等において、数量の関係に着目して、計算を能率的にする設問や、二つの棒グラフを関連付けて傾向を読み取り、目的に即して判断する設問に課題が見られた。また、「数と計算」等において、示された計算の仕方解釈し計算したり、示された式(除法)の意味を理解する設問も全国を下回った。

2 各学校における今後の取組

調査結果から明らかになった課題の共有化と組織的な取組の具体化

- ・ 発達段階ごとに各領域の関連する指導内容に対して、系統的に指導するための具体策を講じる。(組織的(全校)で取り組む学力向上策)
- ・ 具体化された取組の成果をいつ見取るか、何で見取るかを設定する。(取組の評価)
- ・ 取組の評価をした結果、明らかになった新たな課題への補充的な指導及び発展的な指導を設定する。

3 教育事務所における今後の取組

(1) 始良・伊佐スキルアップセミナーの開催

- ・ 検証授業に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業モデルの発表
- ・ NITS(独立法人教職員支援機構)研究員による講話

(2) 学びの組織活性化推進プロジェクト及び小学校学力向上対策サポート授業でのアプローチ

(3) 校内研修等への指導主事の積極的な派遣及び指導助言

4 その他

独立行政法人教職員支援機構(NITS) オンライン講座No.14

※ 全国学力・学習状況調査の過去問題を活用して、指導の妥当性を確認することによって、思考・表現する授業の在り方を再考する。※ 国研「解説資料」参照

【指導の妥当性を確認するための問題例】

【設問2(3)】「量と測定/数量関係 指導内容 3年D(3)、5年B(4)」

・ H25B5(1) (正答率76.2%)

・ H21B5(3) (正答率17.9%)

【設問2(2)】「数と計算/数量関係 指導内容 3年D(3)、5年B(4)」

・ H26B2(1) (正答率82.6%)

・ H20A4(2) (正答率55.7%)

【設問3(3)】「数と計算 指導内容 4年A(3)イ、エ」

・ H28A1(2) (正答率68.7%)

・ H29A1(3) (正答率91.1%)

【設問3(4)】「数と計算 指導内容 3年D、5年A7、イ、ウ」

・ H28B3(1) (正答率62.7%)

・ H25B2(1) (正答率51.9%)

【設問4(2)】「数量関係 指導内容 3年A(3)イ」

・ H20B2(2) (正答率58.5%)

・ H19B5(3) (正答率18.2%)

教科別結果について

中学校国語

1 本地区の学力に関する実態

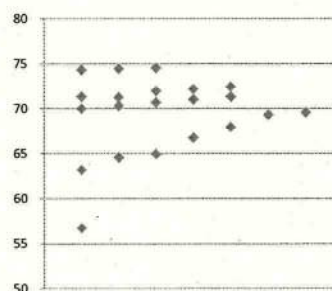
(1) 正答率について

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	最頻値
始良・伊佐地区	1,983	7 / 10	70	9問
鹿児島県（公立）	13,316	7 / 10	70	9問
全国（公立）	938,887	7 / 10	73.2	9問

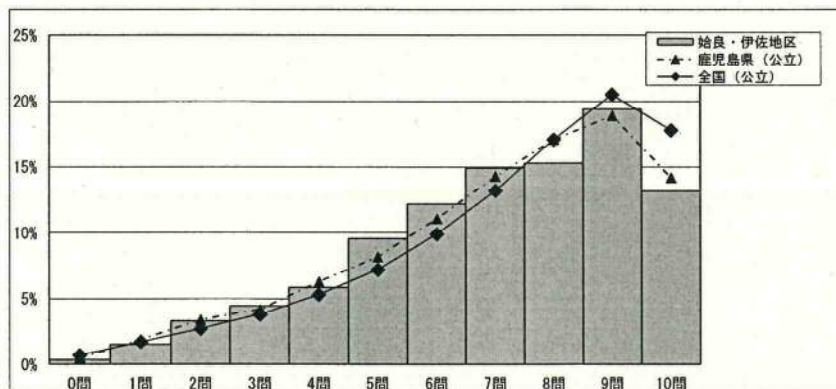
【概況】

地区の正答率平均は、全国平均を下回った。領域ごとについては、「話すこと・聞くこと」(−4.4)、「書くこと」(−0.6)、「読むこと」(−4.6)、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(−2.3)となり、全て全国の正答率を下回っている。

【地区内の正答率分布図】



(2) 正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	始良・伊佐	始良・伊佐	鹿児島県（公立）	全国（公立）
10問	261	13.2	14.2	17.8
9問	385	19.4	18.9	20.5
8問	303	15.3	17.1	17.1
7問	296	14.9	14.3	13.2
6問	242	12.2	11.1	9.9
5問	190	9.6	8.2	7.2
4問	116	5.8	6.3	5.3
3問	88	4.4	4.2	3.8
2問	65	3.3	3.4	2.7
1問	30	1.5	1.9	1.7
0問	7	0.4	0.5	0.7

(3) 問題別集計結果

領域	読むこと			伝国	話すこと・聞くこと			書くこと		伝国
問題番号	1一	1二	1三	1四	2一	2二	2三	3一	3二	4
全国	63.9	61.5	91.2	56.8	80.4	69.7	60.4	87.4	77.8	78.7
県	58.9	56.5	91	54.7	77.4	64.7	56.4	86.6	78.7	77.6
地区	57.1	54.7	92.4	54.8	77.3	65.3	55.8	86.3	78.1	77
全国比	-6.8	-6.8	1.2	-2	-3.1	-4.4	-4.6	-1.1	0.3	-1.7

【概況】

「読むこと」や「書くこと」において「自分の考えをもつ」設問では、全国平均を上回っている。

一方で、「読むこと」において、文章の構成や展開の、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることや、文章の展開に即して情報を整理し、内容を的確に捉えることにおいて大きな課題がある。

「話すこと・聞くこと」においては、話合いの話題や方向を捉えることや、相手に分かりやすく伝わる表現を用いて話すことについて、指導改善を進める必要がある。

2 各学校における今後の取組

調査結果から明らかになった課題の共有化と組織的な取組の具体化

- 発達段階ごとに各領域の関連する指導内容に対して、系統的に指導するための具体策を講じる。（組織的（全校）で取り組む学力向上策）
- 具体化された取組の成果をいつ見取るか、何で見取るかを設定する。（取組の評価）
- 取組の評価をした結果、明らかになった新たな課題への補充的な指導及び発展的な指導を設定する。

3 教育事務所における今後の取組

- 始良・伊佐スキルアップセミナーの開催
 - 検証授業に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業モデルの発表
 - NITS（独立法人教職員支援機構）研究員による講話
- 学びの組織活性化推進プロジェクト及び小学校学力向上対策サポート授業でのアプローチ

4 その他

独立行政法人教職員支援機構（NITS）オンライン講座No.22

※ 全国学力・学習状況調査の過去問題を活用して、指導の妥当性を確認することによって、思考・表現する授業の在り方を再考する。

【指導の妥当性を確認するための問題例】

【設問2一】「話すこと・聞くこと 指導内容 1年Aイ」

・ H28B2三（正答率68.4%）

・ H26B1三（正答率48.9%）

【設問2二】「話すこと・聞くこと 指導内容 1年Aウ」

・ H24B1 二

・ H25A1二（正答率55.2%）

【設問1一】「読むこと 指導内容 2年Cウ」

・ H28B2三（正答率68.4%）

・ H26B1三（正答率48.9%）

【設問1二】「読むこと 指導内容 1年Cイ」

・ H24A6一（正答率69.5%）

・ H27B2一（正答率68.4%）

・ H28B2二（正答率64.6%）

中学校数学

1 本地区の学力に関する実態

(1) 正答率について

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	最頻値
始良・伊佐地区	1,985	9 / 16	56	13問
鹿児島県 (公立)	13,316	9 / 16	57	12問
全国 (公立)	938,887	9 / 16	59.8	13問

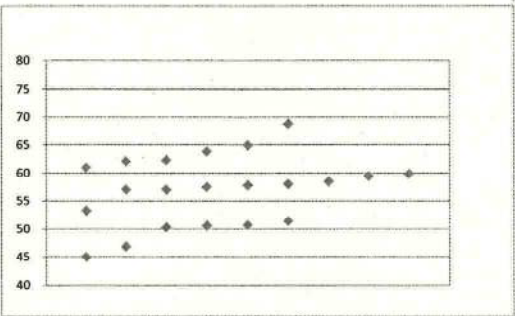
【概況】

地区の平均は、全国平均を下回った。領域ごとについては、「数と式」(－4.4)、「図形」(－0.6)、「関数」(－6.0)、「資料の活用」(－2.3)と全て全国平均正答率を下回っている。

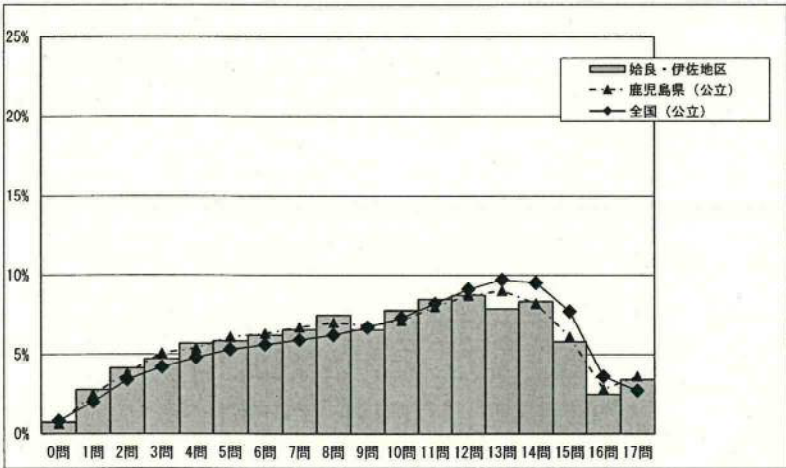
また、下位層が多く、上位層が少ないことから、知識及び技能の反復練習と上位層への手立てに課題があると考えられる。

※全国は公立における

【地区内の正答率分布図】



(2) 正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数集計値				
正答数	児童数	割合 (%)		
	始良・伊佐地区	始良・伊佐地区 (公立)	鹿児島県 (公立)	全国 (公立)
16問	26	1.2	1.2	1.6
15問	64	3.1	2.6	3.4
14問	97	4.6	3.9	4.5
13問	109	5.2	4.3	5.1
12問	103	4.9	4.9	5.3
11問	101	4.8	4.7	5.3
10問	105	5.0	4.7	5.1
9問	107	5.1	4.9	4.9
8問	87	4.1	4.7	4.7
7問	107	5.1	4.8	4.5
6問	89	4.2	4.4	4.3
5問	90	4.3	4.4	4.1
4問	68	3.2	3.9	3.9
3問	82	3.9	4.0	3.7
2問	95	4.5	3.9	3.6
1問	85	4.1	3.7	3.4
0問	68	3.2	3.4	3.2

(3) 問題別集計結果

領域	数と式	数と式	図形	関数	資料の活用	関数		図形			資料の活用			数と式		
問題番号	1	2	3	4	5	6 (1)	6 (2)	7 (1)	7 (2)	7 (3)	8 (1)	8 (2)	8 (3)	9 (1)	9 (2)	9 (3)
全国	62.2	70.1	83.6	48.9	72.8	38.8	34.7	75.8	77.2	53.3	57.9	40.8	53.6	57.4	59.7	69.6
県	63.9	63.2	82.3	43.9	70.3	35	29.4	69.2	75.5	48.8	61.8	41.4	49.5	52.2	57	65.6
地区	64	61.7	80.7	44.1	68.4	34.1	29.1	69.6	74.6	49.3	64.3	42	50.3	52.9	58.6	65.6
全国比	1.8	-8.4	-2.9	-4.8	-4.4	-4.7	-5.6	-6.2	-2.6	-4	6.4	1.2	-3.3	-4.5	-1.1	-4

【概況】

「数と式」における四則計算や、「資料の活用」において、最頻値を読み取る設問は全国平均正答率を上回っている。

一方で、「数と式」において連立方程式を理解することや、「関数」において一次関数についてグラフなどを関連付けて理解したり具体的な事象を捉えて説明すること、「図形」において三角形の合同条件を理解することや証明することの設問には大きな課題が残った。

2 各学校における今後の取組

- 調査結果から明らかになった課題の共有化と組織的な取組の具体化
- 発達段階ごとに各領域の関連する指導内容に対して、系統的に指導するための具体策を講じる。(組織的(全校)で取り組む学力向上策)
 - 具体化された取組の成果をいつ見取るか、何で見取るかを設定する。(取組の評価)
 - 取組の評価をした結果、明らかになった新たな課題への補足的な指導及び発展的な指導を設定する。

3 教育事務所における今後の取組

- 始良・伊佐スキルアップセミナーの開催
 - 検証授業に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業モデルの発表
 - NITS(独立法人教職員支援機構)研究員による講話
- 学びの組織活性化推進プロジェクト及び小学校学力向上対策サポート授業でのアプローチ

4 その他

独立行政法人教職員支援機構(NITS) オンライン講座No.23

※ 全国学力・学習状況調査の過去問題を活用して、指導の妥当性を確認することによって、思考・表現する授業の在り方を再考する。

【指導の妥当性を確認するための問題例】

【設問2-1】「数と式 連立方程式 指導内容 2年A(2)」

- ・ H30A3(3) (正答率80.4%)
- ・ H29A3(4) (正答率63.0%)
- ・ H23A4(4)

【設問4】「関数 指導内容 1年C(1)」

- ・ H21A10(2) (正答率42.3%)

【設問5】「資料の活用 確率 指導内容 2年D(1)」

- ・ H30A15(2) (正答率71.8%)
- ・ H29A15(2) (正答率78.7%)
- ・ H25A15(2) (正答率54.7)

【設問6】「関数 指導内容 2年C(1)」

- ・ H28B3(3) (正答率31.2%)

【設問7】「図形 指導内容 2年B(2)」

- ・ H29A7(1) (正答率78.9%)
- ・ H22A7(2) (正答率56.7%)

教科別結果について

中学校英語

1 本地区の学力に関する実態

(1) 正答率について

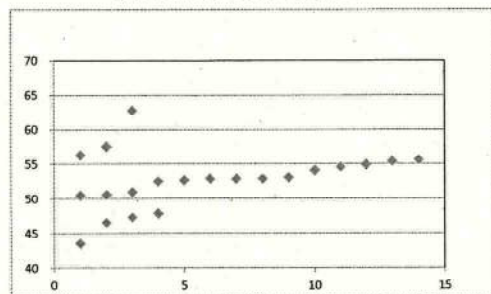
	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	最頻値
始良・伊佐地区	1,986	10 / 21	52	10問
鹿児島県 (公立)	13,324	12 / 21	53	12問
全国 (公立)	938,888	12 / 21	56	12問

【概況】

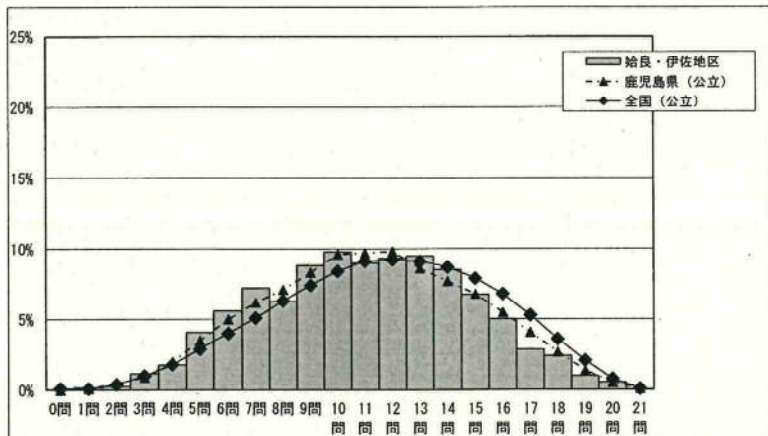
地区の平均は、全国平均を下回った。領域ごとについては、「聞くこと」は(−1.7)、「読むこと」(−2.7)、「書くこと」(−5.9)と全て全国平均正答率を下回っている。

また、下位層が多く、上位層が少ないことから、知識及び技能の反復練習と

【地区内の正答率分布図】



(2) 正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



正答数	正答数集計値		
	児童数	割合 (%)	
	始良・伊佐地区	鹿児島県 (公立)	全国 (公立)
21問	1	0.1	0.1
20問	11	0.6	0.5
19問	20	1.0	1.4
18問	48	2.4	2.7
17問	57	2.9	4.1
16問	100	5.0	5.5
15問	134	6.7	6.8
14問	169	8.5	7.7
13問	188	9.5	8.6
12問	185	9.3	9.8
11問	178	9.0	9.7
10問	194	9.8	9.6
9問	175	8.8	8.3
8問	124	6.2	7.1
7問	143	7.2	6.2
6問	111	5.6	5.0
5問	81	4.1	3.5
4問	35	1.8	2.0
3問	23	1.2	0.9
2問	5	0.3	0.5
1問	3	0.2	0.1
0問	1	0.1	0.1

(3) 問題別集計結果

領域	聞くこと							読むこと							書くこと							
問題番号	1 (1)	1 (2)	1 (3)	1 (4)	2	3	4	5 (1)	5 (2)	5 (3)	6	7	8	9 (1) ①	9 (1) ②	9 (2) ①	9 (2) ②	9 (2) ③	9 (3) ①	9 (3) ②	9 (3) ③	10
全国	91.1	88.6	72.3	61.8	71.8	82	7.6	79.4	74.4	73.1	62.9	32.8	10.9	79.9	58.2	73.6	28.9	53.5	32.9	37.4	1.8	
県	91.9	90.4	65.8	60.2	71.5	82.2	6.3	78.1	72.2	69.4	60.5	29.6	10.3	79.1	52.5	69.1	25.5	49.1	27.2	28	1.2	
地区	91.9	91	65.3	54.7	72	82	6.3	80.7	71.8	68.5	60.9	27.7	7.9	78.1	49.8	66.7	24.5	46	27.4	26.4	0.6	
全国比	0.8	2.4	-7	-7.1	0.2	0	-1.3	1.3	-2.6	-4.6	-2	-5.1	-3	-1.8	-8.4	-6.9	-4.4	-7.5	-5.5	-11	-1.2	

【概況】

「聞くこと」においては、教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることや、まとまりのある英語を聞いて話の概要を理解したり必要な情報を理解することについて全国を上回っているか同程度である。一方で、日常的話題について、情報を正確に聞き取る設問では、下回っている。「読むこと」においては、まとまりのある文章(複数あり)から大切な部分を理解したり、目的に即して話の内容や書き手の意見等を捉えることが正答率が低い。「書くこと」では、接続詞、3人称を用いた基本的な表現などの知識に関する設問の正答率が全国を下回っており、場面や状況から文の形式や動詞の形を適切に判断して正確に書く力を確実に付けることが必須である。

2 各学校における今後の取組

調査結果から明らかになった課題の共有化と組織的な取組の具体化

- 発達段階ごとに各領域の関連する指導内容に対して、系統的に指導するための具体策を講じる。(組織的(全校)で取り組む学力向上策)
- 具体化された取組の成果をいつ見取るか、何で見取るかを設定する。(取組の評価)
- 取組の評価をした結果、明らかになった新たな課題への補充的な指導及び発展的な指導を設定する。

3 教育事務所における今後の取組

- 始良・伊佐スキルアップセミナーの開催
 - 検証授業に基づいた「主体的・対話的で深い学び」の実現する授業モデルの発表
 - NITS(独立法人教職員支援機構)研究員による講話
- 学びの組織活性化推進プロジェクト及び小学校学力向上対策サポート授業でのアプローチ

4 その他

独立行政法人教職員支援機構(NITS) オンライン講座No.19

※ 鹿児島県学習者調査における各領域の過去問のうち、思考・表現を問うもの例は次の通りです。※ 過去3年間分

【話すこと、聞くこと】

- 中1・H30 4(1)(正答率82.3%) (2)正答率63.9%)
- ・ H29 4(1)(正答率82.3%) (2) (正答率82.3%)
- ・ H28 4 1(正答率52.%) 2 正答率(58.0%)
- 中2・H30 4(正答率17.7%, 無答率35.6%)
- ・ H29 8(2)(正答率29.0%) (3)(正答率47.2%)
- (4)(正答率55.9%)
- ・ H28 5 1(正答率76.0%) 2(正答率43.4%)

【読むこと】

- 中1・H30 8(1)(正答率67.7%) (2)(正答率59.8%)
- ・ H29 7(2)(正答率77.7%)
- 8(1)(正答率43.9%) (2)(正答率74.6%)
- ・ H28 10 2 平均(正答率53.5%) ※「話すこと、読むこと」
- 中2・H30 7(正答率55.5%)
- 8(1)(正答率41.0%) (2)(正答率4.4%)
- (3)(正答率33.8%) (4)(正答率48.6%)
- ・ H29 8(2)(正答率29.0%) (2)(正答率47.2%)
- (3)(正答率55.9%)
- ・ H28 9 1(正答率56.0%) 2(正答率19.8%)
- 3(正答率50.5%) 4(正答率48.7%)

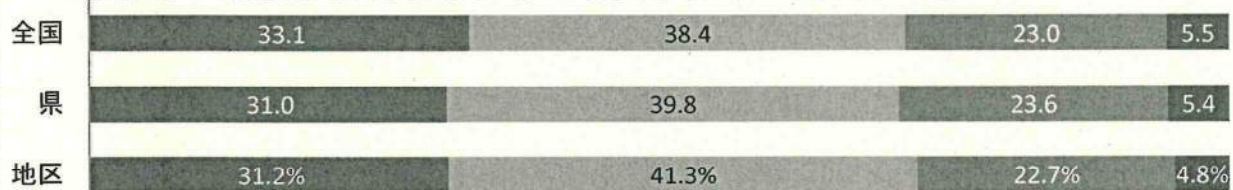
【書くこと】※正答率は「使い方が正しく、自分の考えを十分に伝えること」

- 中1・H30 11①(54.3%) ②(49.9%) ③(61.5%)
- ・ H29 11(1)(58.9%) (2)(23.2%) (3)(34.8%)
- ・ H28 11 1(79.5%) 2(71.0%) 3(57.4%)
- 中2・H30 11①(28.6%)②(22.0%)③(37.8%)

【小学校】児童質問紙から(抜粋)

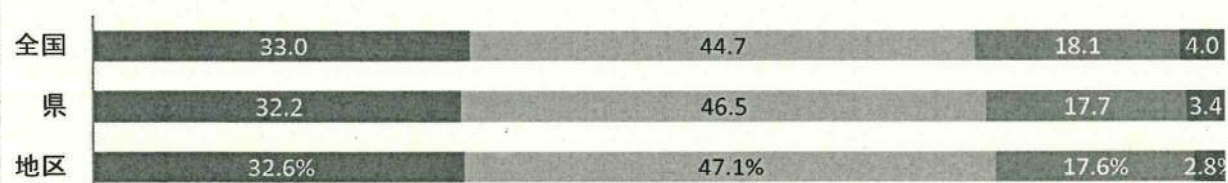
① 家で、自分で計画を立てて勉強している (Q17)

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



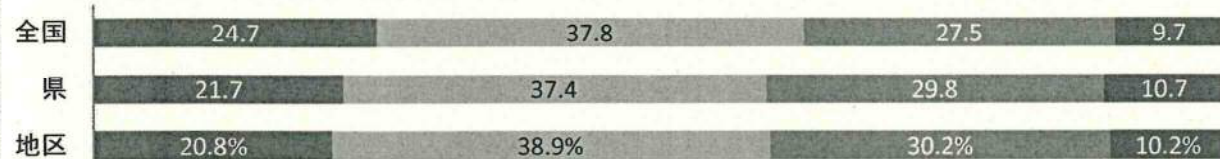
② 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた (Q35)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



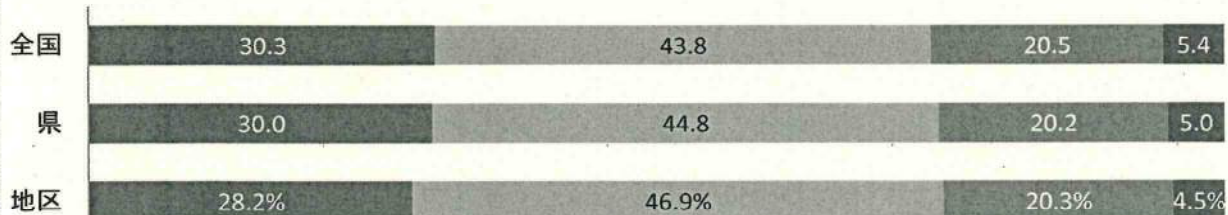
③ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた (Q36)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



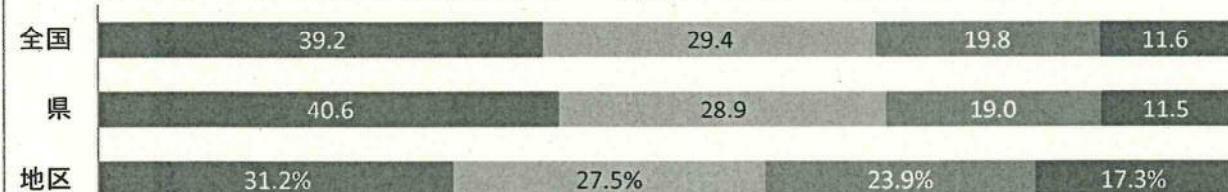
④ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている (Q29)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



⑤ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい (Q)

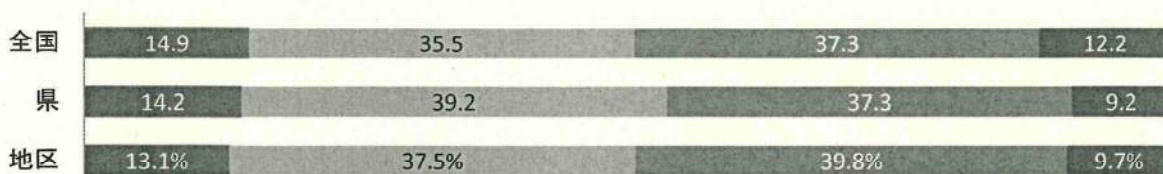
■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



【中学校】生徒質問紙から(抜粋)

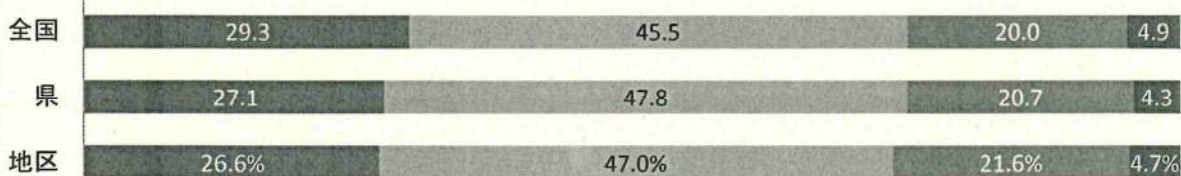
① 家で、自分で計画を立てて勉強している (Q17)

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない



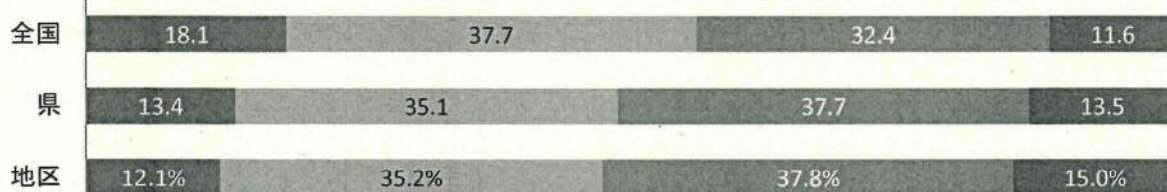
② 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた (Q37)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



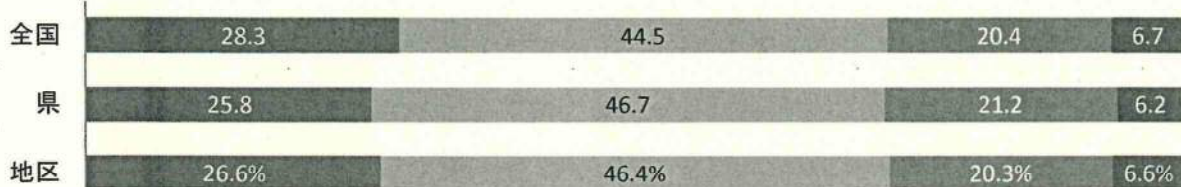
③ 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた (Q38)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



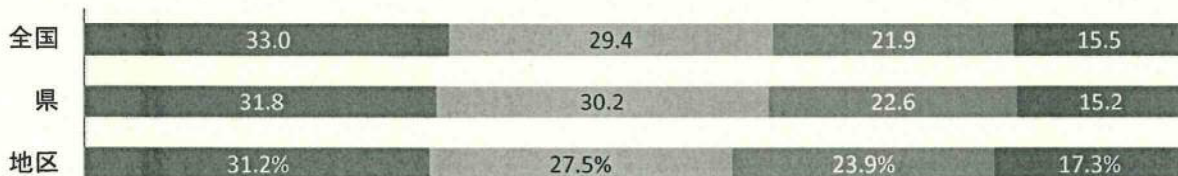
④ 生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる (Q32)

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



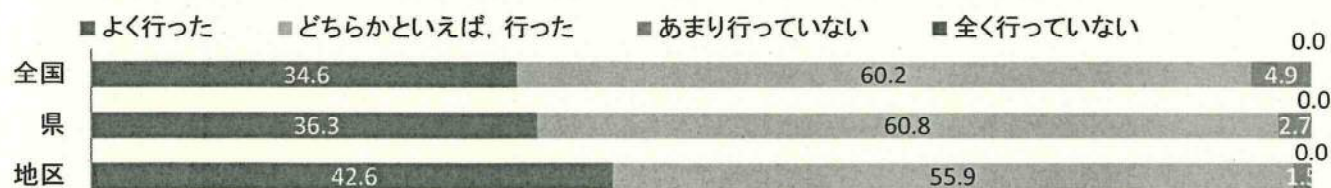
⑤ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたい (Q25)

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない

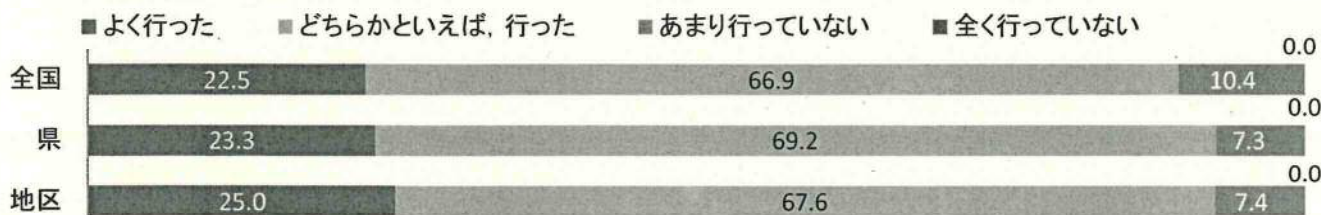


【小学校】学校質問紙(抜粋)

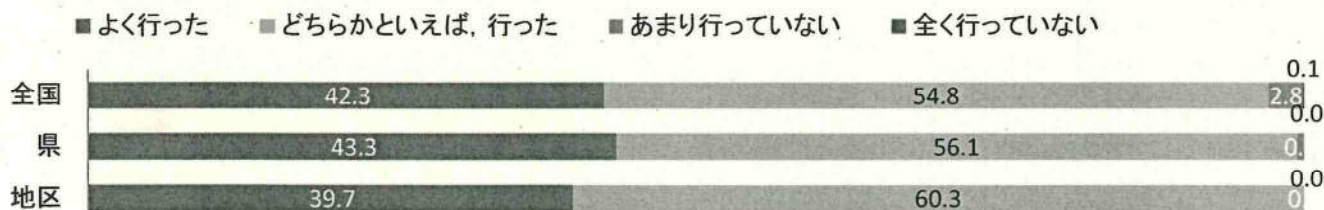
① 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している。(Q15)



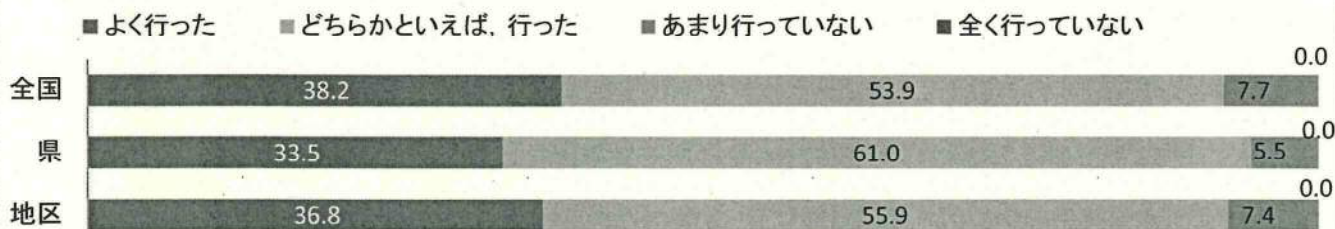
② 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている。(Q37)



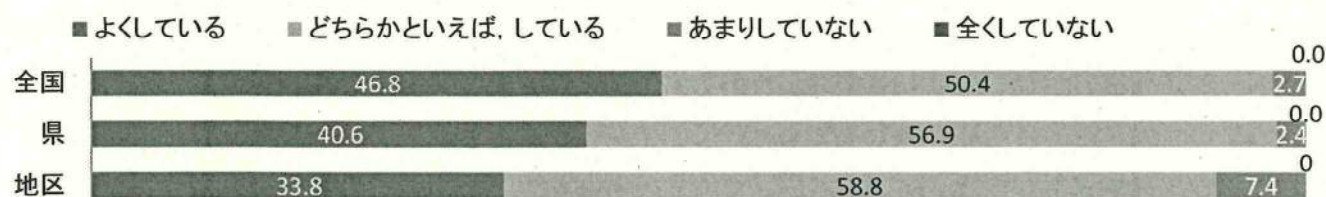
③ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した(Q63)



④ 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている。(Q29)

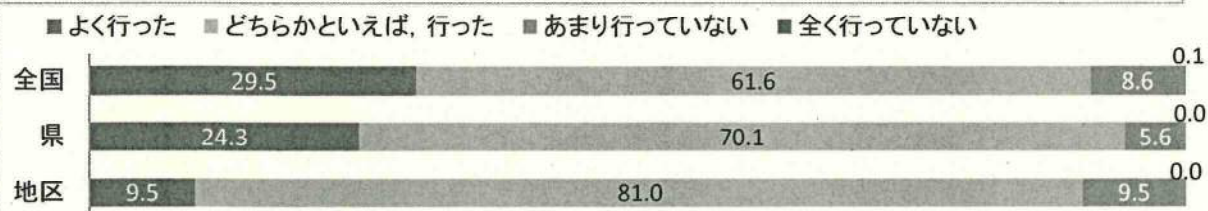


⑤ 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。(Q19)

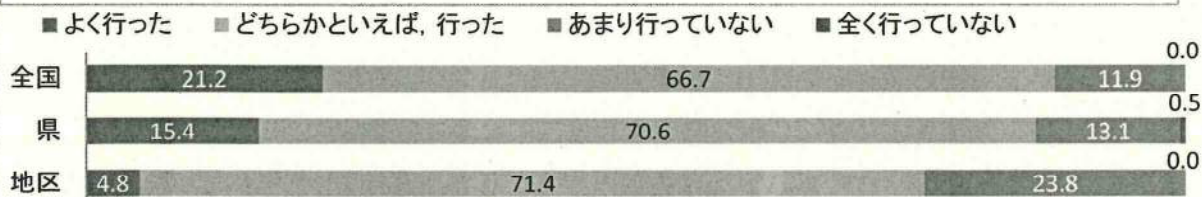


【中学校】学校質問紙(抜粋)

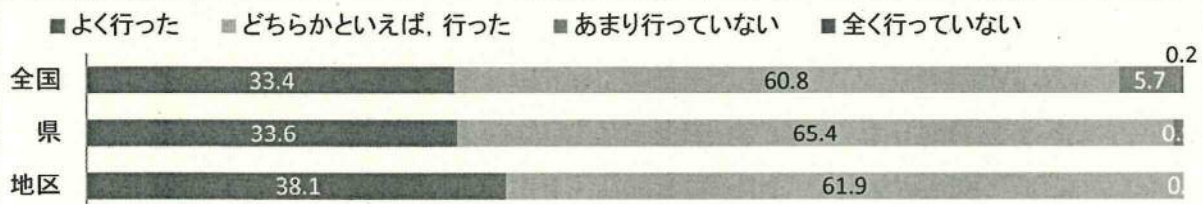
① 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している



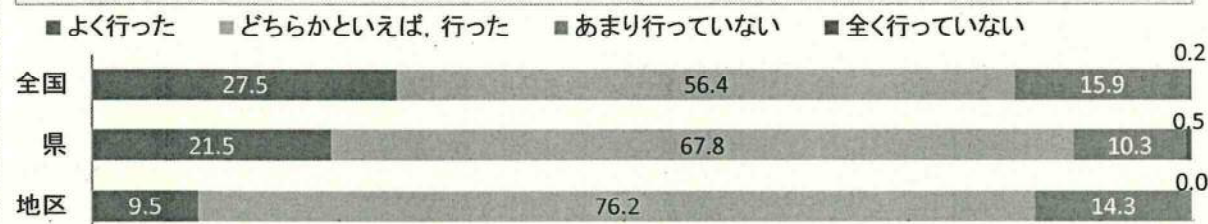
② 調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている。(Q37)



③ 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用している。(Q79)



④ 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている。(Q30)



⑤ 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる(Q19)

